

## 第5回生涯現役社会の実現に向けた就労のあり方に関する検討会 における主な意見

テーマ	主な発言内容
1. 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の雇用は若者の雇用と代替的なものではなく、高齢者が働くことで若者の雇用を作り出せるということを書くべき。</li> <li>・ 日本という国がどう高齢社会に対応していくかの姿勢を明確に出すべき。高齢者が「支えられる側」から「支える側」へという「高齢社会対策大綱」の考え方を入れると良いのではないか。</li> <li>・ 高齢者の活躍の形として、高齢者派遣を入れた方が良いのではないか。</li> <li>・ 都市部の記述について、高齢化という言い方ではなく、高齢者数、企業退職者数が増えるという表現が良いのではないか。</li> <li>・ 厚生年金を受給している退職者の中には、金銭的な必要性よりも地域貢献をしたいという人が出てくる、ということも書くべきではないか。</li> </ul>
2. 高齢者の就労・社会参加をめぐるニーズとマッチング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホワイトカラー層に、これまでの仕事ではなく（生活支援などの）新しい就業を強制している感じを受けるため、働く中で地域と関わるといような書き方にすると良いのではないか。</li> <li>・ 高齢者に「深夜」の就業は負担が重く、対応が難しいのではないか。</li> <li>・ 高齢者の仕事として、①誰かがセットしないと提供されないもの（防犯、防災など）、②生産性は高いが、誰かが情報を取りまとめないとマーケットにのらないもの（国際的取引など）、③生産性がなかなか伸びず、低賃金で供給が不足しているもの（介護、育児など）の3種類がある。この3種類の仕事を一体どういう所がコーディネートしていくべきかという視点で整理してはどうか。</li> <li>・ 高齢者に、①生活支援をやってもらう、②これまでの経験スキルを活かしてもらう、この2パターンに分けて考えるとわかりやすいのではないか。</li> </ul>
3. 今後の生涯現役社会における就業・社会参加のあり方についての提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マインドリセットは既に多くの企業が行っているが上手くいっていないため、インターンシップの利用や学生の就職支援くらいの踏み込んだ取り組みが必要ではないか。</li> <li>・ 移動支援については、買物支援に加え通院支援も重要である。</li> <li>・ 新しいものを作るほかに、既存のプラットフォームを維持拡大することも重要。</li> <li>・ 高齢者の中には若者世代に指示されることを好まず、「自分たちでやりたい」という人もおり、そういった人たちの活動をどう支援するかという視点も入れると良いのではないか。</li> <li>・ プラットフォームについて、ICTをうまく活用して情報共有やマッチングを行うといったことを盛り込んでどうか。</li> <li>・ コーディネーターは、個々人が持っている素質に頼ることも重要だが、キャリアコンサルタントに不足した部分を勉強してもらうといった、</li> </ul>

	<p>体系的な育成の仕組みが必要ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ハローワークが力を発揮できる部分もあると思われるため、ハローワークの活用も必要ではないか。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・理念や方針、基本的な視点を明確にすると良いのではないか。</li><li>・今も地域社会で頑張っている人がいるため、「さらに」「一層」というスタンスが必要。</li></ul>